俳句

俳句の基礎知識

●定型・季語

俳句は**五**・**七**・**五**の十七音からなり、それぞれ**上五**・**中七**・**下五**という。定型より音数が多いものを**字余り**、少ないものを**字足らず**という。

（例）赤い椿（六音）白い椿と落ちにけり　河東碧梧桐

俳句には季節を表す語である季語を詠み込む。

（季語の例）
- 春……梅、桜、たんぽぽ
- 夏……梅雨、五月雨、若葉
- 秋……名月、天の川、鈴虫
- 冬……雪、時雨、大根
- 新年……初春、門松

※季語は「歳時記」などで調べることができる。

季語を詠み込む、五・七・五の定型で詠む、という俳句のきまりごとを**有季定型**という。これに対して、季語のない俳句を**無季俳句**、自由な音律の俳句を**自由律俳句**という。

（自由律俳句の例）咳をしても一人　尾崎放哉

●切れ字・句切れ

「や・かな・けり」など、句の切れ目を示す言葉を切れ字という。切れ字は、感動の中心を表したり、句に余情をもたせたりする働きもある。一句の中での言葉や意味の切れ目を句切れという。切れ字や、その他の言い切りの表現があるところなどに句切れがある。

- 初句切れ…五／七・五
- 二句切れ…五・七／五
- 中間切れ…中七の途中で切れる

などがある。

俳句五句

A　いくたびも雪の深さを尋ねけり　正岡子規

B　桐一葉日当たりながら落ちにけり　高浜虚子

C　をりとりてはらりとおもきすすきかな　飯田蛇笏

D　万緑の中や吾子の歯生え初むる　中村草田男

E　分け入つても分け入つても青い山　種田山頭火

発句と俳句

江戸時代以降、俳諧の連歌の最初の一句（発句）が独立して鑑賞されるようになった。その後、明治時代の俳諧革新運動によって、近代俳句が確立した。

確認テスト　俳句を読んで、問いに答えなさい。

(1) A〜Dの句の季語をそれぞれ書きぬき、季語が表す季節を答えなさい。

A 季語［　　　］ 季節［　　　］
B 季語［　　　］ 季節［　　　］
C 季語［　　　］ 季節［　　　］
D 季語［　　　］ 季節［　　　］

(2) A〜Dの句に含（ふく）まれる切れ字をそれぞれ書きぬきなさい。

A［　　　］
B［　　　］
C［　　　］
D［　　　］

(3) A〜Eの中から、中間切れの句を探し、記号で答えなさい。

［　　　］

(4) A〜Eの中から、自由律俳句を探し、記号で答えなさい。

［　　　］

(5) A〜Eの中から、体言止めが用いられている句を探し、記号で答えなさい。

［　　　］

(6) 次の①〜⑤は、A〜Eのどの句について述べたものか。それぞれ記号で答えなさい。

① 草木の生命力と我（わ）が子の姿が呼応するように捉（とら）えられている。
② 病床（びょうしょう）にあって外の景色が気にかかる心情がうたわれている。
③ 旅の中、ひたすら深い山道を歩む作者の姿が感じられる。
④ 落ち葉がゆったりと静かに舞（ま）い落ちる様子が描（えが）かれている。
⑤ 穂のやわらかな感触（かんしょく）が、ひらがなの表記からも伝わってくる。

①［　　　］ ②［　　　］ ③［　　　］ ④［　　　］ ⑤［　　　］